

日本レコード協会規格

RIS 105 -1994

CD用CD-Rマスタ運用基準

1994年6月2日制定

社団法人 日本レコード協会

日本レコード協会規格

RIS 105 -1994

CD用 CD-R マスタ運用基準

1. 適用範囲 この規格は、JIS S 8605 に準拠したオーディオ専用コンパクトディスク (CD-DA) 製造用として、オリジナルマスタから CD-R 記録機によって複製したカッティング用マスタディスク (以下、CD用 CD-R マスタという。) について規定する。

備考 この規格の引用規格を次に示す。

- JIS S 8605 コンパクトディスクデジタルオーディオシステム
- JIS X 0308 国際標準レコーディングコード (ISRC)
- JIS X 0201 情報交換用符号
- RIS 502 レコード商品番号体系
- RIS 503 ISRC 運用基準

2. 記録用ディスク CD用 CD-R マスタに用いる記録用ディスクは、ソニー/フィリップス発行のレコーダブルコンパクトディスクシステム (通称オレンジブック) Part II : CD-WO に準拠したものとし、その主な構造及び寸法は、図 1 及び表 1 のとおりとする。

図 1 記録用ディスクの構成

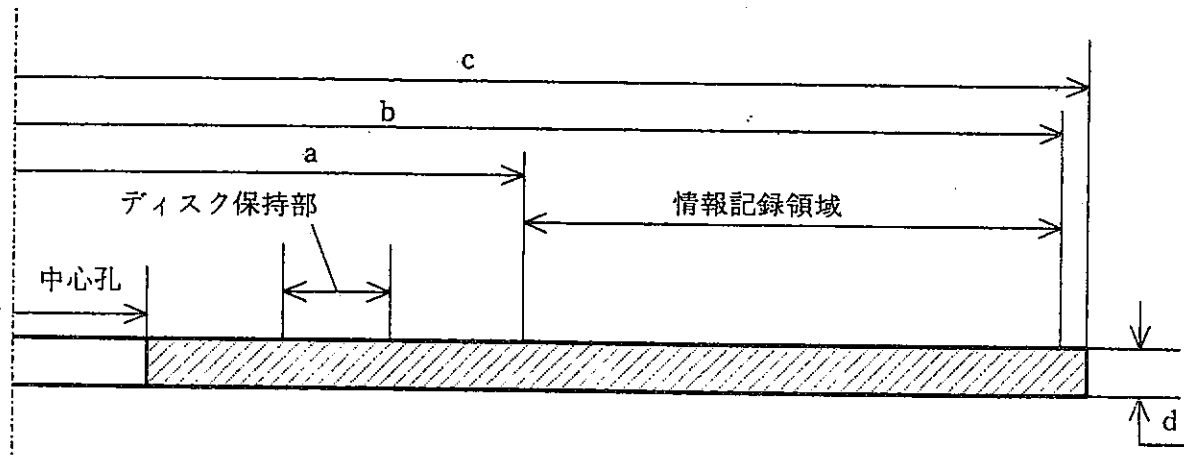


表 1 記録用ディスクの寸法

単位mm

記号	名称	各部の寸法	
		8 cmディスク	12 cmディスク
a	情報記録領域の開始径	44.7	44.7
b	情報記録領域の最大径	78	118
c	ディスクの外径	80	120
d	ディスクの厚さ	1.2	1.2

備考 各寸法は標準寸法とする。

3. 記録済ディスク CD用 CD-R マスタの構造及び寸法は、図2及び表2のとおりとする。

図2 記録済ディスクの構造

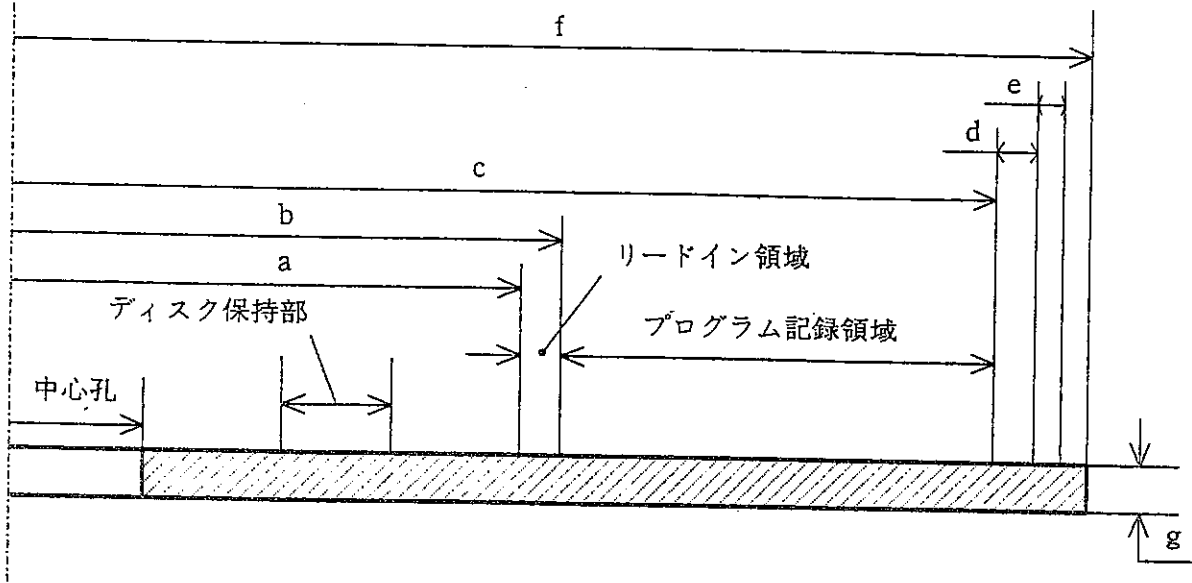


表2 記録済ディスクの寸法

記号	名称	各部の寸法	
		8 cmディスク	12 cmディスク
a	リードイン領域の開始径	46 以下	46 以下
b	プログラム記録領域の開始径	50	50
c	プログラム記録領域の最大径	75	116
d	リードアウト領域	プログラム終了から1分36秒	
e	マスタ情報領域	リードアウト終了から24秒以内	
f	ディスクの外径	80	120
g	ディスクの厚さ	1.2	1.2

備考 各部寸法は標準寸法とする。

4. 信号の記録方法 信号の記録方法は、オレンジブックに準拠してリードインからリードアウト終了まで連続記録とする。

このとき、記録された信号は、JIS S 8605の規定に適合していなければならない。

4.1 デジタルオーディオ信号 デジタルオーディオ信号の記録方式は、表3のとおりとする。

表3 デジタルオーディオ信号の記録方式

項 目	内 容	
チャンネル数	2チャンネル	
標準化周波数	44.1 kHz	
量子化	16 bit 2の補数直線符号化	
エンファシス	15+50 μ s (使用する場合)	
プログラム収録時間 (標準)	8 cmディスク	20分 21秒 (最長)
	12 cmディスク	74分 43秒 (最長)

4.1.1 ステレオホニク ステレオホニクは、ステレオホニク信号をプログラム記録領域に記録し、一つのプログラム帯を構成する。

このとき、Lチャンネルは左信号、Rチャンネルは右信号とする。

4.1.2 モノホニク モノホニクは、モノホニク信号をプログラム記録領域に記録し、一つのプログラム帯を構成する。

このとき、LRチャンネルは同レベル同位相で録音する。

4.2 サブコード信号 サブコード信号の種類と内容は、表4のとおりとする。

表4 サブコードの種類及び内容

種 類	内 容
Pチャンネル	トラック区分フラグ(曲の頭出し信号)
Qチャンネル/モード1	チャンネル数, エンファシスの有無, トラック番号 インデックス番号, プログラム経過時間(A Time) など
Qチャンネル/モード2	POSコード (必要な場合)
Qチャンネル/モード3	ISRCコード

備考1. Pチャンネルのトラック区分フラグ(曲の頭出し信号)の標準的な設定は、プログラムの開始時点から5フレーム以上前とする。

2. Qチャンネル/モード1のインデックス番号は、指定されたフレームに合わせて設定すること。

3. Qチャンネル/モード3のISRCコードは、トラック区分に対して設定すること。

5. マスタ情報 マスタ情報は、表5に示すもので、その信号フォーマットは附属書のとおりとする。

表5 マスタ情報の種類

ディスク情報	サブコード情報
(1) 発売会社名又はその略号	(1) Pチャンネル情報
(2) レコード商品番号	(2) Qチャンネル情報
(3) マスタディスク番号	(3) POSコード情報(必要な場合)
(4) マスタディスク作成年月日	(4) ISRC情報
(5) その他	

6. 品質 CD用CD-Rマスタは、トラブル防止のため必ずデータのエラーチェックを行って、その検査結果を記録したテクニカルデータシートなどを添付する。

このとき、プログラム内のデータエラーは、表6のとおりとする。

表6 データエラー

項目	データエラー
ランダムエラー	1%以内/秒
訂正不能エラー	ないこと

7. 表示事項 CD用CD-Rマスタには、必ずマスタ番号を表示しなければならない。

また、適当な方法によって、次の事項を表示したものを添付する。

- (1) マスタ番号
- (2) ディスク商品番号 (RIS 502 レコード商品番号体系による)
- (3) 録音内容 (アルバムタイトル/曲名など)
- (4) 表示時間 (各トラックスタートタイム/曲タイム/合計タイム)
- (5) サブコード (R-W) の有無
- (6) ISRCコード (RIS 503 ISRC 運用基準による)
- (7) POSコード (必要な場合)
- (8) 記録システム名
- (9) 発売会社名及び担当者名
- (10) 特記事項
 - (a) エンファシス ON/OFF
 - (b) オリジナル音源に起因するノイズ
 - (c) マスタリング担当者名
 - (d) その他必要事項

附属書 マスタ情報の記録フォーマット

1. **マスタ情報領域** マスタ情報領域は、リードアウト開始ポイントから1分36秒後のポイントで始まり、最長同じく2分0秒のポイントまでとする。

マスタ情報の内容は、次の4セグメントから構成する。

- (1) 第1マスタ情報セグメント
- (2) 第2マスタ情報セグメント
- (3) 第3マスタ情報セグメント
- (4) 冗長セグメント

各セグメントは、連続、密着して記録する。

マスタ情報の各セグメントは、CD-ROMモード1 (ECC, EDC付き) と同一フォーマットで記録する。ただし、ヘッダの内容は、1.4.1の規定によるものとする。また、マスタ情報領域に先だってプリギャップを設けてもよい。

各マスタ情報セグメントの内容は、同一のものとする。冗長セグメントの長さは、最短5秒とし、そのユーザデータフィールド内の内容は自由とする。

1.1 **サブコードPチャンネル** マスタ情報領域のサブコードPチャンネルは、ゼロに設定する。

マスタ情報領域には、スタートフラグを立てない。

1.2 **サブコードQチャンネル** マスタ情報領域のトラック番号はFFhとし、インデックス番号は常に01hとする。

MIN, SEC及びFRAMEは、全マスタ情報領域内の相対時間を示し、AMIN, ASEC及びAFRAMEは、リードアウト領域から連続した絶対時間とする。

CONTROLコードは、41hのみとする。

1.3 **サブコードR~Wチャンネル** サブコードR~Wチャンネルは、予備としてゼロに設定する。

1.4 **主チャンネル** 各マスタ情報セグメントのデータは、CD-ROMモード1のフォーマットに従って記録する。

各マスタ情報セグメントの内容は、“シート”によって規定される。シートは、そのヘッダによって判別され、そのフォーマットは、附属書表1のとおりとする。

附属書表 1 シートフォーマット (全シートサイズが 2044 バイト以下の場合)

バイトNo.ブロック 先頭から	内 容
0 ⋮ 11	シンク Sync(12 bytes)
12 ⋮ 15	ヘッダ Header(4 bytes)
16 ⋮ 19	(MSB) 合計長 The Total size of a Sheet(4 bytes) (LSB)
20 ⋮ 2063	シート内容 Content of the Sheet シート終了 (End of the Sheet) 以後ゼロ Zero(00h)
2064 ⋮ 2351	ECC, EDC, など

シート内容の大きさは、合計長フィールドにバイト数で設定する。

シート内容は、合計長フィールドに続きスタートする。

シートの末尾と EDC フィールド間のスペースは、00h を記録する。

シートが 2044 バイトより大きい場合 (1 ブロックより大) には、シートは連続するブロックから成るユーザデータフィールドに分割する。この場合、合計長フィールドはシートの最初のブロックにのみ存在する。

各セグメント内では、シート番号は昇順になる。シート不在の場合には、シート番号はスキップする。

1.4.1 ヘッダ すべてのマスタ情報セグメントのヘッダ内容は、次のとおりとする。

(1) 分 セグメント判別のため分フィールドに、下記の値を記録する。

第1マスタ情報セグメント …AAh
 第2マスタ情報セグメント …ABh
 第3マスタ情報セグメント …ACH
 冗長セグメント …ADh

(2) 秒 シート番号は、秒フィールドに記録する。各シートには、シート番号が付けられ判別される。シート番号は、附属書表2のとおり設定されるものとする。

附属書表2 シート番号

シート番号 Sheet Number	シート名 Sheet Name
00h	ディスク情報シート Disk Information Sheet
01h	サブコード情報シート Subcode Information Sheet
02h…1Fh	予備 Reserved
20h…2Fh	ベンダー固有 Vendor Unique
30h…FFh	予備 Reserved

(3) ブロック ページ番号は、ブロックフィールドに記録する。

ページ番号は、各シート内の相対ブロック番号を意味する。ページ番号は、常に“0”から始まり、各シート内では昇順に並べる。

(4) モード マスタ情報に関する部分では、モードフィールドを常に01hとする。

2. ディスク情報シート CD-R マスタでは、ディスク情報シートがなければならない。

ディスク情報シート内のすべての情報は、JIS X 0201 の 2 0 h から 7 E h までの 95 文字を使用して記録し、そのフォーマットは、附属書表 3 のとおりとする。

附属書表 3 ディスク情報シートフォーマット

バイトNo.	内 容	
0~31	基本情報 (必須) Basic Information	発売会社名又はその略号 (32 バイト) ⁽¹⁾
32~63		レコード商品番号 (32 バイト) ⁽²⁾
64~95		マスタディスク番号 (32 バイト) ⁽³⁾
96~103		マスタディスク作成年月日 (8 バイト) ⁽⁴⁾
104~255	拡張情報 (任意) Extended Information	メモエリア (152 バイト) ⁽⁵⁾

基本情報は、すべて記録しなければならない。拡張情報部分は、任意とする。

各フィールドは、先頭から記録する。不使用部分は、スペースコード (20h) を記録する。

注 (1) 発売会社名又はその略号： このフィールドには、32 バイトを割り当てる。

(2) レコード商品番号： このフィールドには、32 バイトを割り当てる。

(3) マスタディスク番号： このフィールドには、32 バイトを割り当てる。

(4) マスタディスク作成年月日： このフィールドには、8 バイトを割り当てる。附属書表 4 に従って記録する。

(5) メモエリア： このフィールドには、152 バイトを割り当てる。このフィールドは、自由に使える。

附属書表 4 マスタディスク作成年月日 (例：1994 年 05 月 27 日)

年				月		日	
31h	39h	39h	34h	30h	35h	32h	37h
1	9	9	4	0	5	2	7

3. サブコード情報シート サブコード情報シートには、コピー作成のための情報を記録する。マスタディスクとして機能するためには、サブコード情報シートがなければならない。サブコード情報シート内には、サブシートが存在する。そのフォーマットは、附属書表5のとおりとする。

附属書表5 サブコード情報シートフォーマット

サブコード情報シートヘッダ
Pチャンネル情報サブシート
Qチャンネル情報サブシート
(POSコード情報サブシート)
(ISRC情報サブシート)

3.1 サブコード情報シートヘッダ サブコード情報シートヘッダのフォーマットは、附属書表6のとおりとする。

附属書表6 サブコード情報シートヘッダフォーマット

バイトNo.	内 容
0	フォーマットタイプ (00h)
1	標準別コード (FFFFh)
2	
3	フォーマットバージョン (00h)
4	予備 (00000000h)
5	
6	
7	

3.2 Pチャンネル情報サブシート Pチャンネル情報サブシートには、トラックスタートフラグの先頭時間及び末尾時間をサブコードQチャンネル内の絶対時間を用いて表示 (BCD) し、そのフォーマットは、附属書表7のとおりとする。

附属書表7 Pチャンネル情報サブシートフォーマット (トラック数=n)

バイト No.	スタートフラグ先頭部時間				スタートフラグ末尾部時間			
	ゼロ (00)	分	秒	フレーム	ゼロ (00)	分	秒	フレーム
	バイト0	バイト1	バイト2	バイト3	バイト0	バイト1	バイト2	バイト3
0	第1トラック スタート フラグ							
8	第2トラック スタート フラグ							
⋮	⋮							
(n-1)×8	第nトラック スタート フラグ							
n×8	リードアウト トラック スタート フラグ							
(n+1)×8	2 Hz	ON/OFF	スタート時間		00h	00h	00h	00h

3.3 Q チャンネル情報サブシート Q チャンネル情報サブシートには、ディスクの編集レイアウトに関する情報を記録する。そのフォーマット例を附属書表 8 に示す。

附属書表 8 Q チャンネル情報サブシートフォーマット (例)

バイト No.	CONT /ADR	TNO	X	DATA FORM	ZERO	ABSOLUTE TIME		
						分	秒	フレーム
0~7(Lead-in)	01	00	00 ⁽¹⁾	00	00	00 ⁽¹⁾	00 ⁽⁴⁾	00 ⁽¹⁾
8~15	01	01	00 ⁽¹⁾	00	00	00 ⁽¹⁾	00 ⁽¹⁾	00 ⁽¹⁾
16~23 ⁽²⁾	01	01	01	00	00	00	02	00
24~31	01	02	00	00	00	07	29	71
32~39	01	02	01	00	00	07	31	71
40~47	01	03	01	00	00	14	18	03
48~55 ⁽⁵⁾	41	04	00	00	00	19	06	62
56~63 ⁽⁵⁾	41	04	00	02	00	19	07	62
64~71	41	04	01	02	00	19	09	62
72~79 ⁽⁵⁾	41	05	00	02	00	27	37	10
80~87 ⁽⁵⁾	41	05	00	03	00	27	38	10
88~95	41	05	01	03	00	27	40	10
96~103	01	06	00	00	00	38	53	23
104~111	01	06	01	00	00	38	55	23
112~119	01	06	02	00	00	45	12	42
120~127	01	06	03	00	00	48	33	09
128~135	01	06	04	00	00	52	47	59
136~143 (Lead-out)	01	AA	01 ⁽³⁾	00	00	56	37	46

記録データはすべて Hex 表示

注 (1) 常に 00 h

(2) ディスクの第一トラックの前に 2~3 秒のポーズを挿入する (第 1 トラックがデータトラックの場合、プリギャップは存在せず、2 秒の“ポーズ”が先行する)。

(3) 常に 01 h

(4) ディスクタイプ (3.3.8 参照)

(5) プリギャップ (3.3.9 参照)

この情報は、1 行 8 バイトから成る表によって示される。この情報は、三つの部分から構成される。

第 1 の部分は、リードインに関するもので、1 行から成る。第 2 の部分は、プログラム領域に関するもので、ディスク内容によって必要行数が変わる。最後の部分は、リードアウトに関するもので、1 行以上から成る。

プログラム領域及びリードアウトに関するデータは、ディスクの絶対時間の順に並べる。

3.3.1 コントロール (CONT) コントロールフィールドは、各トラックの種類を示す四つのフラグビットを記録する。

- 00×0b: 2オーディオチャンネル, プリエンファシスなし
- 10×0b: 4オーディオチャンネル, プリエンファシスなし
- 00×1b: 2オーディオチャンネル, 50/15マイクロ秒のプリエンファシス付き
- 10×1b: 4オーディオチャンネル, 50/15マイクロ秒のプリエンファシス付き
- 01×0b: データトラック
- ××0×b: デジタルコピー禁止
- ××1×b: デジタルコピー可

3.3.2 アドレス (ADR) Qチャンネル情報サブシートにおいては、アドレスを常に0001bとする。

3.3.3 トラック番号 (TNO) トラック番号は、2桁BCDによって記録する。

3.3.4 インデックス (X) インデックスは、2桁BCDによって記録され、インデックス番号を意味する。

3.3.5 データフォーマット (DATA FORM) データフォーマットは、当該絶対時間から始まるデータのフォーマットを示す。

- 00h: CD-DA (オーディオ) R~W なし
- 01h: CD-ROM モード0 R~W なし
- 02h: CD-ROM モード1 R~W なし
- 03h: CD-ROM モード2 R~W なし
- 04h: CD-I, CD-ROM XA フォーム1又は2 R~W なし
- 80h: CD-DA (オーディオ) R~W あり
- 81h: CD-ROM モード0 R~W あり
- 82h: CD-ROM モード1 R~W あり
- 83h: CD-ROM モード2 R~W あり
- 84h: CD-I, CD-ROM XA フォーム1又は2 R~W あり

3.3.6 ゼロ (ZERO) この8ビットは、“0”とする。

3.3.7 絶対時間 (ABSOLUTE TIME) 分, 秒, フレームから成る時間表示は、コントロール, トラック番号, インデックス, データフォーマットの変化ポイントをディスク絶対時間で記録する (BCDで表示)。

3.3.8 ディスクタイプ (Disk Type) ディスクタイプは、ディスクの形式を示す。

- 00h: CD-DA (オーディオ) 又は CD-ROM
- 10h: CD-I
- 20h: CD-ROM XA

3.3.9 プリギャップ (Pre-gap) プリギャップに関する情報は、2行から成り、1行目はプリギャップ先頭部, 2行目はプリギャップ末尾部を示す。

3.3.10 ポストギャップ (Post-gap) ポストギャップに関する情報は、Qチャンネル情報サブシートには記録しない。

3.4 POS コード情報サブシート POS コード情報サブシート内にディスクのPOS コードを記録する。POS コードは、UPC/EAN に準拠したものとし、そのフォーマットは、附属書表 9 のとおりとする。ただし、POS コードがない場合には、POS コード情報サブシートは存在しない。

附属書表 9 POS コード情報サブシートフォーマット

CONT /ADR	POS コード						
バイト 0	バイト 1	バイト 2	バイト 3	バイト 4	バイト 5	バイト 6	バイト 7
02h	N1 N2	N3 N4	N5 N6	N7 N8	N9 N10	N11 N12	N13 0000b

CONT : 4 ビットすべて“0”

ADR : 0 0 1 0 b

POS コード : 13 桁 BCD (JIS S 8605 に準拠)

3.5 ISRC 情報サブシート 国際標準レコーディングコード (ISRC) は、各音楽トラックに与えられる固有のコードである。ISRC 情報サブシートの例を附属書表 10 に示す。

この情報は、1 行 8 バイトから成る表によって示され、1 トラックは 2 行から成る。ISRC 情報サブシート内では、トラックナンバーが昇順になるようにする。

なお、ディスク全トラックに ISRC がない場合には、ISRC 情報サブシートは存在しない。また、ディスク内の一部のトラックに ISRC がない場合には、そのトラック番号はサブシート内に表示されず、次の有効トラック番号へと進む。

附属書表 10 ISRC 情報サブシートフォーマット (例)

バイト No.	CONT /ADR	TNO	ZERO		ISRC			
	バイト 0	バイト 1	バイト 2	バイト 3	バイト 4	バイト 5	バイト 6	バイト 7
0	03h	01h	00h	00h	トラック 1 ISRC (I1...I5)			
8	03h	01h	00h	00h	トラック 1 ISRC (I6...I12)			
16	03h	02h	00h	00h	トラック 2 ISRC (I1...I5)			
24	03h	02h	00h	00h	トラック 2 ISRC (I6...I12)			
32	03h	04h	00h	00h	トラック 4 ISRC (I1...I5)			
40	03h	04h	00h	00h	トラック 4 ISRC (I6...I12)			
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮			

CONT : 4 ビットすべて“0”

ADR : 0 0 1 1 b

TNO : トラック番号 (2 桁 BCD)

ZERO : 各バイト 0 0 h

ISRC : 附属書表 11 及び 12 参照

附属書表 11 ISRC (I 1~I 5)

バイト No.	ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	ビット3	ビット2	ビット1	ビット0
4	I 1						(MSB)	I 2
5	I 2			(LSB)	(MSB)	I 3		
6	I 3	(LSB)	I 4					
7	I 5						0	0

附属書表 12 ISRC (I 6~I 12)

バイト No.	ビット7	ビット6	ビット5	ビット4	ビット3	ビット2	ビット1	ビット0
4	I 6				I 7			
5	I 8				I 9			
6	I 10				I 11			
7	I 12				0	0	0	0

ISRC の 12 文字コード (JIS S 8605 に準拠)

- I 1-I 2: 国名コード
- I 3-I 5: レコード会社コード
- I 6-I 7: 録音年コード
- I 8-I 9: レコーディング番号

RIS 105 -1994

CD 用 CD-R マスタ運用基準 解説

はじめに 社団法人 日本レコード協会は、1992年に“CD用マスタテープ運用基準”(RIS 104)を制定した。

この規格は、レコード生産の主流がコンパクトディスク(CD-DA)に移行したのに伴い、レコード各社とCD工場との間でCD製造用マスタテープの受け渡し業務が急増したことに対応して、CD製造用にCD工場に送られるマスタテープ(通称:Uマチック)に対する一般的な技術基準を明確化すると共に、国際レベルで実施されている“国際標準レコーディングコード(ISRC)”のコーディングの徹底を図ったものである。

その後、新しい記録メディアとしてレコーダブルコンパクトディスク、即ち、CD-R(WO)が開発されて、CD-ROM制作の分野で用いられて来たが、オーディオ分野での利用方法の開発が進み、CD-DA用マスタ編集・製作システムが実用化され、既に一部のレコード会社で導入されている。

このCD-DA用マスタ編集・製作システムは、今後種々のメーカーでの開発・実用化の可能性があるため、各システム間の互換性の確保、ISRCコーディングの徹底、各CD工場とレコード会社間での業務の円滑化などを目的として、ここに“CD用CD-Rマスタ運用基準”を規格化した。

以下に、その主な点について、本文各項を追って解説する。

1. 適用範囲 この規格は、JIS S 8605に準拠したオーディオ専用のコンパクトディスク(CD-DA)を製造するために、CD-R(WO)を用いてCD工場に送るマスタディスクを製作するときの運用基準について規定した。

なお、このCD用CD-Rマスタは、必ずオリジナルのマスタから複製されたものでなければならぬ点に注意を要する。

2. 記録用ディスク CD用CD-Rマスタに用いる記録用ディスクの種類は、8cmディスクと12cmディスクの2種類とし、その主な構造及び寸法を図1と表1で規定した。

なお、記録用ディスクの詳細については、ソニー/フィリップス発行の“レコーダブルコンパクトディスク(通称オレンジブック) Part II: CD-WO”を参照されたい。

3. 記録済ディスク 記録済ディスクは、CD-RにCD製造用マスタとしての必要情報を記録したもので、その構造と各部の寸法を図2と表2で規定した。

4. 信号の記録方法 CD用CD-Rマスタへの信号の記録方法は、リードインの開始からリードアウト終了まで、連続記録(一気書き)とした。

また、記録された信号は、当然の事ながらCDプレーヤで支障なく再生できるようCDのJIS規格(S 8605)に適合していなければならない。

4.1 デジタルオーディオ信号 デジタルオーディオ信号の記録方式は、CD-DA としての基本的な項目を表 3 で規定した。

この内、プログラムの収録時間は、8cm ディスク：20 分 21 秒、12cm ディスク：74 分 43 秒を最長時間の標準とした。この収録時間を超えると、再生上トラブルを起こすことがあるので、注意を要する。

また、この規格では、収録するプログラムの記録方式は、ステレオホニックとモノホニックの 2 方式とした。

なお、ここでいうモノホニックは、いわゆる“2 チャンネル・モノ”であり、L・R 両チャンネルにそれぞれ個別のモノホニック信号を記録した長時間ディスクは、規格外れとなる。

4.2 サブコード信号 サブコード信号の種類とその内容を表 4 に示した。

この内、POS コードと ISRC コードを記録するときは、次の点に注意する必要がある。

- (1) Q チャンネル/モード 2 に記録する POS コード (必要な場合) は、製品 1 単位を識別するもので、ディスクが 2 枚以上にわたる組み物の場合でも、POS コードは変わらない。
- (2) Q チャンネル/モード 3 に記録する ISRC コード (必須) は、収録されたプログラムを 1 曲単位で識別するためのもので、トラック区分と対応する。

5. マスタ情報 マスタ情報は、CD 用 CD-R マスタ固有の情報であり、その種類は表 5 に示し、その信号フォーマットは附属書で規定した。

6. 品質 CD 用 CD-R マスタとして要求される品質については、データエラーで規定し、表 6 に示した。

また、トラブルを防止するため、検査結果をテクニカルデータシートなどに明示することとした。

7. 表示事項 表示事項は、CD 用 CD-R マスタの受け渡し業務に必要な項目を規定した。

これら表示事項は、通常はディスクに添付されるテクニカルデータシートなどに表示されているが、この内“マスタ番号”は、事故防止のために、必ず完成したディスク本体に表示することとした。

原案作成委員会 構成表

(幹事)	黒田勝也	(株)ポニーキャニオン 取締役録音録画部長
(委員)	渡辺義之	日本コロムビア(株) ソフト技術部マスタリング課長
	高橋幸夫	日本コロムビア(株) ソフト技術部主任技師
	村岡良一	(株)ビクターエンタテインメント ソフト技術部スタジオ次長
	西田尚雄	キングレコード(株) 録音部編集担当課長
	阪口修一	テイチク(株) 奈良事業部技術部マルチメディア課長代理
	伊藤勲	東芝EMI(株) スタジオ事業部制作技術部長
	小平恵洋	(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント 録音部長
	沼尻英二郎	(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント 製造技術部次長
	森尾知行	(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント 製造技術部課長
	福井末憲	日本フォノグラム(株) 録音部長
	八代尚晶	ソニー(株) 知的財産渉外部課長
	猪口達也	ソニー(株) コンポーネントカンパニーCD-ROM部
	郡山竜	(株)アプリックス 代表取締役社長
	北田隆治	(株)スタート・ラボ 取締役営業部長
(事務局)	白田元大	(社)日本レコード協会 技術部長
	村上則夫	(社)日本レコード協会 技術部課長

審議・制定：技術委員会（委員長：高野 宏，1994. 6. 2）
原案作成：CD-Rマスタ原案作成委員会（幹事：黒田勝也，1994. 5. 26）
発行：国際日本レコード協会
東京都中央区築地2-8-9（〒104）
電話（03）3541-4411～4
